

■特集■ ネット短歌の現在

評論サイトとキュレーター

武富純

普段よく訪れている評論・書評サイトをベースに、おすすめてきそうなところをできるだけ簡潔にまとめてみた。

【概観追放】

東郷雄二のサイト。前京都大学大学院人間・環境学研究所教授で専門はフランス語学・言語学。自身は歌作は全くせず、いわゆる純粹読者として短歌評論に向き合っているだけに、歌への深い愛を感じられる意欲的な発言が多い。

書評を主とした「今週の短歌」は二〇〇三年にスタートし、中断や引越しを経てすでに二百回を越えている。評判に関係無く自身の感性で気になった歌集を取り上げ、論理的に、ときに時代論を重ねつつまめ上げる手法は評論を読み書きする者にとって大いに参考になるはずだ。その昔、私が評論に取り組み始めたとき、最初に参考にさせていたサイトである。最近では松岡秀明『病室のマトリョーシカ』、大野道夫『秋意』が取り上げられている。

【川野里子の短歌とエッセイ】

横書き二段組の凝った画面で作り込まれていて、過去に総合誌や結社誌に掲載された原稿をベースに評論、時評、エッセイ、講演、自己の歌集、著作等、多岐に渡る記事がきっちり分類されている。

特に評論は年代別に並べられていて読み応えがある。「歌人論」も多岐にわたり、とてもこの欄では紹介しきれないほどの量だ。パソコンによつては文字が小さく表示されるので、画面下でフォントサイズを「大」にするのと読みやすくなる。

【短歌のヒーナツ】

堂園昌彦、永井祐、土岐友浩らがほぼ毎週更新で記事を寄せている。個人歌集以外を読もうという粹な主旨で、評論、評伝、短歌史、エッセイ、入門書、アンソロジーなどを対象にしている。

第一回は二〇一六年四月で、佐藤通雅『茂吉覚書 評論を読む』。その後のタイトルをランダムに挙げると、正岡子規『仰臥漫録』、

岡井隆『現代短歌入門』、山田航・編著『椛前線開架宣言』と対象がランダムで非常に幅広く、かつ若い感性で深く真面目に考察されていて興味深い。引用文が細線で囲まっていたりする表記がとても読みやすい。

【詩客】

短歌、俳句、自由詩の作品や評論を掲載し、それぞれの詩型の特徴や相違点を考え、これからの表現の可能性を探ろうとするサイト。本サイトの「短歌時評」は二〇一三年までだが、ブログ「詩客・短歌時評」の最近の力作は吉岡太朗「短歌にとつて君とは何か」。全十章立てで「君」の使われ方とその機能を探っている。

また、敷内亮輔「中村稔『石川啄木論』と、人間について」等、若い世代の歌人たちが交代で論を重ね続けている。

【トナカイ語研究日誌】

二〇〇九年に角川短歌賞と現代短歌評論賞を同時受賞した山田航のサイト。「現代歌人ファイル」の第一回は二〇〇八年の「斉